



脳卒中後遺症の治療にボツリヌス療法

リハビリテーション部 (脳神経外科)

山野 潤



脳卒中後遺症には、片麻痺、しびれ、失語、高次脳機能障害など様々な症状があります。片麻痺については、急性期病院での治療後、回復期リハビリ病院に転院されて、機能を回復されている方が多くいます。その後、在宅、もしくは慢性期病院へ転院となるのですが、時間の経過とともに、上肢下肢のつっぱり感が強くなり、回復していた機能が低下してしまう場合があります。これが脳卒中後遺症の痙縮です。

当院では、上肢下肢の痙縮について、筋肉注射（ボツリヌス療法）を施行して、3～5日間の集中的リハビリ加療を行っています。脳卒中ガイドラインにおいても、グレードAの治療です。

適応となる症状は、手首が曲がったまま開きにくい、肘が曲がって伸ばせない、上肢を挙げようとしても痛みが強くて動かせない、足首が伸びて歩くときに引っかかる、などがあります。

診察の結果、痙縮があれば、ボツリヌス療法を施行することにより、症状を軽減することができます。麻痺を治す治療ではありませんが、手足のつっぱりを軽減して、関節の可動がしやすくなるため、歩行時のバランスがよくなったり、着替えがしやすくなったりします。

薬剤の効果は、約3ヶ月ほどなので、効果が弱くなっていく頃に、追加の施行が必要です。回数を重ねることで効果の長期化が期待されますので、3回以上の施行を提案しています。脳神経外科外来までご相談ください。



チームのために自分の役割を活かす

富山市病院事業局 管理部長 砂田 友和



えっ！自分で大丈夫？

はじめまして。今年度より富山市病院事業局管理部長として赴任しました砂田です。私は、平成元年に富山市に奉職し、振り出しの市民課では、出生や婚姻など、市民の皆さんのライフイベントを戸籍に登載する事務などに従事し、以降、市街地再開発や観光振興、市長等の秘書業務、職員研修、上下水道事業、文化振興などに携わってきました。しかし行政サービスの原点と言われる職場での業務経験はわずかで、本年4月からの医療分野での業務スタートには、かなりの不安を覚えました。石田事業管理者をはじめ、富山市民病院、富山まちなか病院、そして管理部の皆さんの温かい理解と協力のもと、日々の業務にあたっています。

サプライズ

市の病院事業全般や、本誌「れんけいと支援」発行の主意でもある「地域医療連携」について分かり始めてきた折、藤村市民病院長から、当号への寄稿を依頼されました。サプライズでもあり一瞬、戸惑いましたが、これまでの働きを認めてくださったのだらうと、“よし、自分も何かのお役立てにならなければ！”と、勢い余って“分かりました”と恰好は付けたものの、筆は全く走らず締め切りは迫るばかりでした。

チームスピリットー皆のために自らを活かすー

折しも、東京オリ・パラ開催の準備が進められておりますが、私は中学・高校時代、チームスポーツの部活動に明け暮れ、いずれは、胸に日の丸を着け、国際舞台で活躍する夢ばかりを見続けていました。競技経験から、相手を自分にひきつけ、仲間にパスを出す、そして仲間が得点する、自分の存在を仲間のために活かし、チームが勝利する、自らの得点以上に誇らしさを感じられる連携プレーならではの醍醐味も学びました。

地域医療機関の皆様と市民病院が、密接な連携を通じて患者さんや市民の皆さんの健康増進を図るチームと捉えますと、私が学んだ“チームスピリット”に通じるものがあると感じております。私の立場と役割が、地域医療連携事業に活かされる醍醐味を皆様と共感できるようお役立てしてまいりたいと思っていますので、今後ともよろしく当院をお引き立てくださいますようお願いいたします。

開放型病床をご利用される先生方へのお知らせ

平素より当院との医療連携についてご理解ご協力賜り厚く御礼申し上げます。

さて、コロナ禍にあって現在の開放病床のご利用は少なく、曜日と時間を制限して職員が対応する旨を4月にご案内をしたところでございます。現在、ワクチン接種が進行中ではありますが、開放型病床の利用状況については当面現在の状況が続くと予想されます。そこで、7月より開放型医師室での職員の常駐はせず、先生方の来院のお時間に合わせてその都度対応させていただくことにいたします。つきましては、誠にご不便をおかけいたしますが、来院される場合はふれあい地域医療センターに電話にて事前にご一報いただけますと幸いです。連絡先は下記のとおりです。諸事情お汲み取りいただきご海容いただけますようよろしくお願いいたします。

院長 藤村 隆
地域連携室主任部長 土岐 善紀

連絡先 ふれあい地域医療センター (担当) 石崎、池田 TEL 076-422-1112 (代) 内線2989



1. 地域連携の会

※参加ご希望の先生は、ふれあい地域医療センターへご連絡をお願いします。
TEL076-422-1112（代）内線2989

日時：7月13日（火） 19:00～20:15 場所：当院3階 講堂

1) ミニレクチャー 3題

(1) 「腎性貧血治療の新展開」

腎臓内科 大田 聡

1985年にエリスロポエチン（EPO）の遺伝子がクローニングされ、それからわずか5年の短期間で腎性貧血治療にEPO製剤が臨床応用され、透析患者さん、保存期腎不全患者さんの生命予後、QOLの改善に多大な貢献をしてきました。その中で一部の患者さんにおいてESA低反応が問題となり、鉄代謝の管理法も含めて、腎性貧血ガイドライン作成の際にも大きな議論となりました。2019年に我が国で初めての経口腎性貧血治療薬である

HIF-PH阻害薬が上市されました。本剤はESA低反応の代表的病態である慢性炎症を伴った腎性貧血において鉄の有効利用を通して、従来のEPO製剤よりも効果が発揮される可能性があり、腎性貧血治療が一つの転換点を迎えるといわれています。講演では腎性貧血の基本的な病態や最新のガイドラインの内容、HIF-PH阻害薬の話題について解説させていただきます。

(2) 「妊娠中・後の運動療法あれこれ」

産婦人科 津田 竜広

「運動が健康にいい」なんて誰もが知っています。医療者の皆さんも健康を意識して運動をしている人も多いでしょう。しかし、「妊娠中は？」と聞かれると、途端に分からなくなるかもしれません。答えは「YES」です！もちろん妊娠中だって、出産後だって運動は健康にいいんです。ただし、妊娠末期になるにつれ、子宮は増大し、静脈は圧迫され、重心は後方に傾きバランスを崩しやすくなります。また、リラキシンというホルモンにより靭帯や関節は緩みやすくなり、急激な方向転換や回転運動などは不向きです。そう、不向きな動きがある、けれど運動を制限する理由なんてありません。妊娠の初め頃から運動をしていたら、妊娠中の腰痛や便秘に悩まされることもないか

もしれません。日本は世界で1、2を争う長寿国ですが、平均寿命と健康寿命にはおよそ10年の開きがあります。新型コロナの影響もあり、最近ではフレイル・サルコペニアに関する講演もよく見聞きし、その予防に50-60代から早期に介入（1次予防）することも言われますが、筋肉量のピークは大体30歳です。しかし、20-30代女性の運動習慣率は10%もありません。さらに、生活習慣病の起源は子宮内環境に遡る（成人病胎児起源説概念の拡大）ことを示唆する報告も多数あります。そうです、妊娠を機に運動習慣を身につけることは、女性の生涯の健康に寄与し、さらにはその子供の健康にも影響を及ぼし得る、まさに最強の一次予防です。

(3) 特別企画

臨床研修医「未来を語る」

初期臨床研修医 織田 哲郎、上山 健斗

予告

※8月の地域連携症例検討会の開催はありません。

9月の予定は下記のとおりです。ご参加お待ちしております。

日時：9月14日（火） 19:00～20:15 場所：当院3階 講堂

内容：①症例検討 2例（担当）脳神経内科 泌尿器科

②ミニレクチャー 1題（担当）脳神経外科

※定例の研修会、看護研修

当面の間、開催を見合わせております。

衛星研修S-QUE研修は、今年度より開催中止となりました。



医療安全管理室の役割

医療安全管理室 中井 博子

医療安全管理室は、医療安全管理室室長をはじめ、医療安全管理者（看護師）と今年度から加わった薬剤師1名や医療メディエーター2名の5名で活動しています。

当院は地域の中核病院として患者さんに安心・安全な医療サービスを提供する役割を担っており、医療安全を最優先に活動しています。また、安心・安全な医療を提供するためには、医療従事者自身の労働安全衛生に努める事も重要な役割であり、このコロナ禍においては、医療従事者自身が感染しない事、心理的不安を抱えず業務に専念できるよう安全対策に努めています。

安全管理については、医療安全の指針を定め、医療事故防止マニュアルを見直し周知を図り、安全管理体制を整えています。インシデントやヒヤリハット事例を積極的に報告するシステムも整えられており、医療安全管

理室では、内容を調査・分析して対策を立てPDCAサイクルを回しています。

また、部門・部署別の委員会を設置し運営しており、医療安全対策強化のために、全職員への教育活動も行っています。

その他、不幸にして医療事故が発生した場合には迅速に対応を行い、影響を最小限に留めるように医療安全部として体制を構築しています。

医療安全管理室は、アドボカシー室でもあります。医療安全管理者としても、患者さんやご家族に寄り添って相談をお受けしています。

今年の当院のキーワードは「安全優先」です。地域の先生方が安心して患者を紹介していただけるよう安全文化の醸成に努めてまいります。



医師不在のお知らせ

※外来担当日の休診のみ掲載

7月

科名	医師名	不在日	科名	医師名	不在日
内科	野村智	30日	整形外科・ 関節再建外科	重本	2日、26日
	水野	16日		岩井	1日、8日
	能勢	26日		岡本	30日
	栗田	6日	耳鼻いんこう科・ 頭頸部外科	辻	28日、29日、30日
	石坂	16日	歯科口腔外科	寺島	5日、6日
眼科	山田芳	12日		朝倉	12日
	高松	9日	呼吸器・ 血管外科	瀬川	27日、29日
			小児科	西島	1日～16日

※その他、急に不在となることがありますので、ふれあい地域医療センターまでお問い合わせください。TEL 076-422-1112 (代) 内線2168

編集後記

新型コロナウイルスは新たな変異株が世界各地で確認され、私たちの生活を脅かし続けています。少しでも感染拡大防止につながるようワクチン接種を進めていますが、接種後も油断せずに、手洗いやマスク着用等の基本的な生活習慣を継続することが大切です。

いよいよ東京五輪・パラリンピック開催に向けて、本格的な準備が進められています。我慢の1年を乗り越えた代表選手やサポートされる方々の思いを聞くと、閉会まで安全安心な環境で活躍されることを願わずにはられません。私達も一致団結しサポーターの気持ちで感染防止に努めます。

看護部 大田 優子



作：病院ボランティア 篠崎 佳子

「れんけいと支援」に関するお問い合わせは、ふれあい地域医療センターまでご連絡ください。送付を希望されない方はお申し出ください。

TEL 076 (422) 1114 / FAX 076 (422) 1154
メールアドレス fureairenkei@tch.toyama.toyama.jp



ホームページ <http://www.tch.toyama.toyama.jp/> がん何でも相談室：メールアドレス shien@tch.toyama.toyama.jp